



横浜市立永田台小学校 学 校 だ よ り

8月号 令和8年8月31日 NO.606



自分で考え判断し行動する子どもに

校長 西 かおり

夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気のよい声と笑顔が戻ってきました。子どもたちに会うことで、「よし、気合い入れてがんばるぞ。」という思いになりました。9月に入ると少しずつ運動会に向けて準備を始めます。子どもたちが輝く運動会となるように職員も子どもたちと一緒にがんばっていきたいと思います。

さて、夏休み期間中は、職員にとってインプットの期間でもあります。研修を受けたり教材につながりそのような情報を収集したりしています。私もいくつか研修を受けたのですが、その一つにSDGsの取組について高校生の考えを聞く機会がありました。高校生は、サステナブル研究会をたちあげ、「未来のためにできることをちょっとずつ」というコンセプトで高校生が無理なくできるSDGsを実行しているとのことでした。研修にはいくつかの企業が参加しており、各企業のSDGsに関わる取組をプレゼンするのですが、ある企業がバッテリーをつないで電気をシェアできるコンテナを作製しているといった取組について説明したところ、高校生が「リチウム電池の寿命が約5年前後ですが、使用済みリチウム電池の取扱いはどのようにお考えですか。」「必要な蓄電量を考えるとバッテリーが大きくなると思いますが、持ち運びはどのように行われますか。」などの質問をしていました。おそらく、自分の知識や経験をもとにして考えたり、実際に使用することを想定したときに感じたことをもとにしたりして生まれた疑問を解決しようとしたのでしょう。そして、自分たちにできる活動との繋がりを見出そうとしているようでした。素晴らしいなと思いました。と同時に、永田台小学校の子どもたちが高校生になったころ、このような姿が見られるように力を育てていきたいなと思いました。

今、自分にできることを考え、力を発揮している永田台っ子の姿もみられます。今回は、夏休み中の活躍をお伝えします。まず、7月22日に南区スピーチコンテストが行われ、本校の代表児童が優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。次に、8月22日、23日に本校校庭で行われた「ヨコハマみなみ夏まつり」では、先輩から引き継いだ「ドリーム体操」を13名の有志で披露してくれました。特に、進行をしてくれた3名は、練習の成果を発揮し会場を大いに盛り上げてくれました。ありがとうございました。

今年の夏休みは、改めて防災について考えたり見直したりさせられる夏休みとなりました。9月2日には、本校で総合防災訓練を行います。子どもたちには実際の場を想定して一人ひとりが考えて行動できるようになるように訓練したいと思います。この機会に、ご家庭でもお子さんと防災について話し合ってみてください。

また、地域で防災訓練があるときには、ぜひ積極的に参加していただきお子さんと一緒に、避難場所や避難方法について確認してください。

